



国土交通省

# 清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト 清水港 第二次世界大戦後の復旧・復興工事

(1947~1952)



1945年(昭和20年)7月、空襲や艦砲射撃により、清水港の港湾施設は大きな被害を受けました。8月の終戦後も外国貿易は停止状態となっていました。翌年7月には米国からの援助物資を積んだ第1船が入港し、徐々に貿易が再開されました。

地域の復興に向けて清水港の再建が急がれる中、当時の運輸省(現・国土交通省)は、旧・内務省清水港修築事務所の業務を引き継ぐ組織として、1947年(昭和22年)5月に、清水港工事事務所を設置し、同年から1952年(昭和27年)にかけて、清水港内の浚渫、岸壁の補修・改良、貨物上屋の整備などの復旧・復興工事を実施しました。

地域経済の回復・成長に伴い、輸出入貨物が急増。1952年2月には清水港が特定重要港湾に指定され、以降、急速に近代化が進められることとなります。

- 主要事業 / 日の出地区: 5号上屋の新設、乙岸壁の改良(水深8.5m→水深9.3mへの増深、岸壁前面を1.2m拡張)、渡棧橋の補修、航路の浚渫(水深8.5m~9m)、清水船溜まり(新船渠)の浚渫(水深2.5m)
- 折戸地区: 泊地浚渫(水深9m)
- 事業期間 / 1947年(昭和22年)~1952年(昭和27年)

空襲後の清水市街地



空襲により被災した清水市街図(1945年7月)  
(黒い部分が被災地域(清水市全戸数の約65%))



旧市役所付近



江尻踏切付近

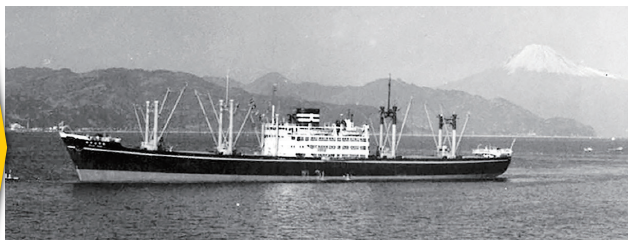
復旧・復興工事後の清水港



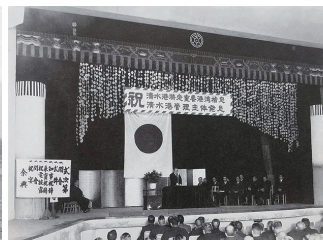
日の出岸壁と5号上屋(1950年)



日の出岸壁(1950年)



清水港に入港する大阪商船「あめりか丸」  
(1951年)



清水港 特定重要港湾指定祝賀式  
(1952年2月11日)



日の出岸壁における日本酒の積み込み(1953年)



日の出岸壁における石炭の荷揚げ(1955年)